
キミの隣

佳保

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

キミの隣

【コード】

N9986E

【作者名】

佳保

【あらすじ】

友達と歩んだ人生は本当に大切なものです。。。

(前書き)

友達と絶交してしまった時に
書いたもの。

(後半は別。)

今は、仲直りしました

キミと歩いた道は、永い道のりだったね。

道の途中でくじけそうになったり、苦しんだりした。

でもね、それでも一緒に歩けたのは、キミだったからだと思う。

手を差し伸べて、支えあった。

背を向けて、先に行こうとした時もあった。

周りから非難されたこともたくさんあった。

でも、キミを信じた。あたしを信じた。

『ズット一緒に歩イテ行コウネ。』

そんな時、すれ違いが起きた。

キミは、他の子と先を歩んだんだ。

『待つて。』って言えば良かった。

でも、絶対待つてくれると思ったんだ…。

あたし、バカだった。

『もぉ、一緒に行かないほうがいいね。』

なんて言っちゃったんだ。

キミは『そうだね。』って言って行っちゃったんだ。

『待つて。』なんて言えなかった。

待つてくれると信じてたから…。

あたしはいつも、怒ってばかりだった。

それでもキミは隣にいてくれた。
それが当たり前だと思ってた。

本当はね、もっと一緒にいたいよ。
もっとバカみたいに笑いたい。
もっと思い出作りたい。
もっともっと、これからも一緒に道を歩きたい。

きつと『ごめんね。』
なんて届かない。
こんな距離じゃ、ダメ。

やっぱり、あたしはバカなんだ。
これから先、いつか待ってくれてる気がする。

あたしは、キミの隣が大切でした。
後悔しても遅いよね。
だから、あたしは1人で行く。
困難だって、乗り切る。

だから、お願い。

待っててね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9986e/>

キミの隣

2010年10月20日19時00分発行